

## 大伙房湿地に関する研究

上智大学 地球環境学研究科

康 馨藝

背景：大伙房湿地は遼寧省中東部に位置する人工湿地である。湿地の東部上流には世界文化遺産の清満族発祥地がある。西部に瀋陽と撫順など中国北東部の中心都市に重要な生活飲料水を提供している大伙房ダムが存在している。大伙房ダム自然保護区は1990年に省レベルの保護区に登録し、2011年12月、国家林業局は大伙房国家湿地公園建設計画を受け、大伙房湿地が遼寧省初の国家レベルの湿地生態保護公園となった。大伙房湿地は下流の水質浄化、水源の涵養、洪水の防止などの効能を有し、都市住民に美的な景観を提供してくれる。大伙房湿地の優劣は下流の10大都市2700万住民の生活・健康には関わるため、湿地の保護と増加は非常に重要だと考えられる。2011年から、大伙房湿地公園建設が始まった。期間は2011年から2018までである。農地の湿地への復元いわゆる「退耕還湿」事業が奨励された。

内容と目的：本研究は大伙房湿地公園中心の大伙房ダムの現状を紹介し、10年間の湿地変化データを分析した上で、大伙房ダムの水質状況を明らかにする。そのため、大伙房国家湿地公園建設計画の実施状況を概観し、現在の水質状況を踏まえた上で、中国で新興した湿地保護事業「退耕還湿」政策を行う際留意すべき点を提案する。

方法：本研究は以下のような方法で調査・研究を行う。

- (1) 大伙房湿地の水質を測定する。主要的には大伙房湿地に位置している大伙房ダムの水質を測定する。ダムの出水口、入水口、中央、左側、右側5点を設定し調査を行う。ダムの10年間の水質状況を当地湿地管理センターから入手する。2011年から湿地建設工程が始まる以来の水質状況の変化を重点に調査する。
- (2) 政府部門のヒヤリング調査や「中国環境報」の資料分析より、10年間で大伙房湿地の変化状況を入手する。
- (3) 湿地保護に関する住民の保護意欲や意識を把握するため、湿地周辺に暮らす住民にインタビュー調査する。
- (4) 中国の「退耕還湿」事業の先行モデル事例や海外優良湿地復元事例を選定し、情報を分析する。

結果：ダム10年間の水質状況を分析した結果、湿地が減少・破壊された主要的な原因は耕地の拡大、湿地周辺に暮らす住民は利益を追求するためであることが明らかにした。耕地が拡大した一方で、農薬や化学肥料が増加し、雨水と共に湿地に流れ込んで、窒素やリンの量が増えた。そのほか、インタビューにより、住民の湿地保護意識が増加したが、生活維持するため、開墾するケースも多かったことが明らかにした結果、新興な「退耕還湿」

事業における補償金制度や罰金力度が不十分であることが解った。